

有限会社 共栄ゴム商会 環境経営レポート

2022年度

(対象期間 2022年12月～2023年11月)



1. 組織の概要
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標と実績
5. 環境経営計画
6. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
取組の対象範囲と環境経営実施体制
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無
8. 代表者による全体評価と見直しの結果

2024年8月1日 作成

1. 組織の概要

1) 事業所名及び代表者名

有限会社 共栄ゴム商会

取締役 酒井 武

2) 所在地 (対象期間 2022年12月～2023年11月)

本社：神奈川県横浜市都筑区大熊町20-1 (平成26年認証登録)

3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 取締役 酒井 武

担当者 武山 博

連絡先 電話 045-472-6426 FAX 045-472-4824

4) 事業活動の内容

産業廃棄物処理業 (収集運搬と中間処理) 及びタイヤ販売業

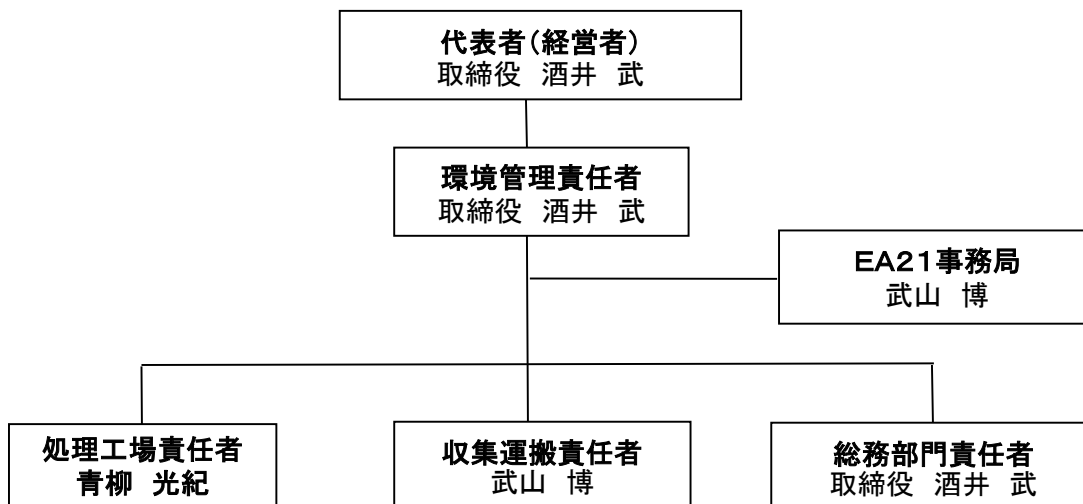
5) 事業の規模

事業規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	百万円	51百万円	55百万円	55百万円
従業員数	人	7人	7人	6人
敷地面積	m ²	990m ²	990m ²	990m ²

6) 情報公開項目 (廃棄物処理業・リサイクル業)

① 法人設立年月日：平成3年12月16日設立、資本金300万円

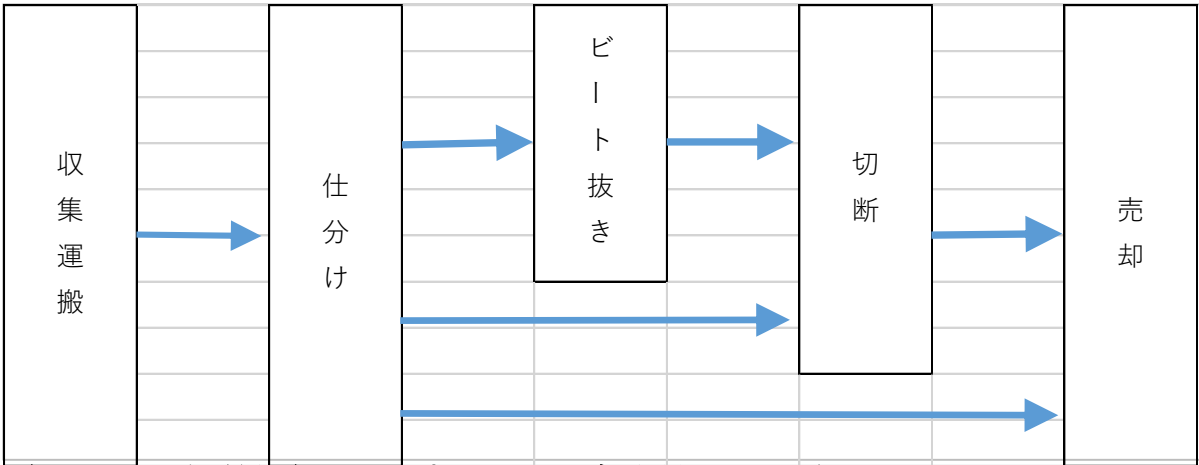
② 組織図



- ③ 事業計画の概要：廃タイヤの適正処理及びリサイクルへの取り組み
- ④ 事業の範囲：産業廃棄物処理業（収集運搬、中間処理）及びタイヤ販売
- ⑤ 許可の内容：

許可自治体	業区分	許可番号	許可年月日	廃棄物の種類	
			許可の有効年月日	廃プラ類	金属くず
横浜市	中間処理	05620036577	令和3年1月1日	○	
			令和7年12月31日		
	収集運搬 (積替え保管を含む)	05610036577	令和4年2月3日	○	○
			令和9年2月2日		
神奈川県	収集運搬	01402036577	令和3年3月12日	○	
			令和8年1月23日		
東京都	収集運搬	13-00-036577	令和3年5月30日	○	
			令和8年5月29日		
千葉県	収集運搬	01200036577	令和3年3月26日	○	
			令和8年3月5日		
群馬県	収集運搬	01000036577	令和4年7月3日	○	
			令和9年7月2日		

- ⑥ 施設等の状況：
 - ・ 運搬車両 4 t 車 1 台、 3 t 車 1 台、 軽トラック1台、 フォークリフト 2 台、 タイヤ切断機 3 台、 大型切断機 1 台、 ビート抜き機 1 台、 チェンジャー・ バランサー各 1 台
 - ・ 中間処理保管量 2 0 1 . 9 m³、 積替保管施設 面積 1 8 m² 保管上限 5 4 m³
 - ・ 処理する産廃の種類： 廃プラスチック類（廃タイヤのみ処理）
 - ・ 処理能力： 約 2 7 5 t / 月 処理方式： 切断
 - ・ 処理実績： 収集運搬量・ 中間処分量 共に1, 282 t / 年
 - ・ 処理工程図 ： 収集→仕分け→ビート抜き（大型車用）→切断→売却



2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日

- 1) 対象範囲は「1. 2) 所在地」欄に記載。
- 2) レポートの対象期間及び発行日は表紙に記載。

3.環 境 経 営 方 針

【基本理念】

有限会社共栄ゴム商会は、廃タイヤの収集運搬及び中間処理業を営んでおり、これらの事業において環境負荷の少ない事業活動並びに環境に配慮し再生ゴムの原料又は再生タイヤの台タイヤ、又燃料として循環型社会形成に取り組むことによって、地球環境保全と持続可能な社会に貢献することを経営の重要課題としています。尚、環境に関する法規等の遵守を誓約いたします。

【基本方針】

当社は、環境関連法規等を遵守し、環境経営オペレーションシステムを運用するなかで次の環境活動を基本的方向として定め、全従業員が一丸と成り、やる気と知恵を活用して継続的に環境負荷の目標数値への低減に取り組みます。

1. 二酸化炭素排出量削減

- ① 空調の適温化（冷房26度程度、暖房20度程度）を徹底する。
- ② エコドライブ等運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等）を励行する。
- ③ タイヤ空気圧を定期的に確認し、メーカー指定の空気圧を保つよう努める。

2. 廃棄物排出量削減

- ① 紙・金属缶・ガラス瓶・プラスチック・電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により、ごみの分別を徹底する。
- ② 発生したゴミは可能な限り、圧縮を行い、減量する。
- ③ 産業廃棄物のマニフェスト管理を徹底する。

3. 水使用量削減

- ① 水道配管からの漏洩の点検を定期的に元栓を閉め、メーターを確認する。
- ② 社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車する場合は節水を励行します。

4. グリーン購入の推進

- ① エコマーク製品や循環製品等の環境配慮の製品・サービスの購入に努めます。
- ② 省エネルギー基準適合製品を購入します。
- ③ 収集運搬車両の購入の際、排ガスのレベル、燃費、リサイクル素材の使用等を考慮します。

5. 廃棄物処理における環境配慮の推進

- ① 中型・大型車の再生タイヤ用台タイヤ等を購買促進して、廃棄タイヤの削減をします。
- ② 排出事業者の排出状況や運搬先の処理施設等の状況を把握し、適切な収集運搬計画を立てます。
- ③ タイヤ切断機の騒音は規制環境レベル以下ですが、施設の窓を閉め出来る限り音が漏れない様に対応します。
- ④ 定期的に委託先の処理内容をマニフェストによりチェックします。
- ⑤ リサイクル商品の販売促進を定期的に取り組みます。

この環境経営方針を全社員に周知し、一般にも公開します。

2023年8月1日

有限会社 共栄ゴム商会

取締役 酒井 武

4. 環境経営目標と実績

4.1 環境経営目標

No.	環境経営目標項目		CO2 換算係数	年度目標		
				2022 年度	2023 年度	2024 年度
1	(対象期間 2022年12月～2023年11月)	電力使用量の削減	電力使用量	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減
			9,895 kWh	9,697 kWh/年以下	9,697 kWh/年以下	9,697 kWh/年以下
		重機・車両等の燃料消費量削減	ガソリン消費量<L>	基準値に対し 8 %削減	基準値に対し 9 %削減	基準値に対し 10 %削減
			893 893	822 L/年以下	813 L/年以下	804 L/年以下
			軽油消費量<L>	基準値に対し 8 %削減	基準値に対し 9 %削減	基準値に対し 10 %削減
			6,200 6,200	5,704 L/年以下	5,642 L/年以下	5,580 L/年以下
		計 (kg-CO ₂)	22,935 kg-CO ₂	21,376 kg-CO ₂ /年以下	21,193 kg-CO ₂ /年以下	21,009 kg-CO ₂ /年以下
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	事業系一般廃棄物	基準値に対し 6 %削減	基準値に対し 7 %削減	基準値に対し 8 %削減
			53 袋(45リットル入り)	50 袋(45リットル入り)	49 袋(45リットル入り)	49 袋(45リットル入り)
3	水使用量の削減 <水道使用量: m ³ >			基準値に対し 6 %削減	基準値に対し 7 %削減	基準値に対し 8 %削減
			94 m ³	88 m ³ /年以下	87 m ³ /年以下	86 m ³ /年以下
4	グリーン購入の推進 (年度毎重点取組項目の決定・実行)	事務用品のグリーン購入 環境配慮電子・電気商品の購入 環境配慮車両の購入	事務用品のグリーン購入 環境配慮電子・電気商品の購入 環境配慮車両の購入	事務用品のグリーン購入 環境配慮電子・電気商品の購入 環境配慮車両の購入	事務用品のグリーン購入 環境配慮電子・電気商品の購入 環境配慮車両の購入	事務用品のグリーン購入 環境配慮電子・電気商品の購入 環境配慮車両の購入
5	産業廃棄物処理業での環境配慮 (年度毎重点取組項目の決定・実行)	再生利用の促進 適正処理の徹底 タイヤ切断機の騒音対策 リサイクル商品の販売促進	再生利用の促進 適正処理の徹底 タイヤ切断機の騒音対策 リサイクル商品の販売促進	再生利用の促進 適正処理の徹底 タイヤ切断機の騒音対策 リサイクル商品の販売促進	再生利用の促進 適正処理の徹底 タイヤ切断機の騒音対策 リサイクル商品の販売促進	再生利用の促進 適正処理の徹底 タイヤ切断機の騒音対策 リサイクル商品の販売促進

①本環境経営目標設定表は、毎年度見直すものとする。

②電力使用量の二酸化炭素排出(二酸化炭素換算)係数は、平成23度の東京電力(株)排出係数0.464kg-CO₂を用いた。

③化学物質の使用はありません。

4.2 環境経営目標の実績

No.	環境経営目標項目		基準値	CO2 換算係数	活動期間(2022/12～2023/11)		
			(2019年度実績)		目標	実績	達成度
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	電力使用量	0.464	9,697 kWh/年以下	10,030 kWh/年	97% △
			9,895 kWh				
		重機・車両等の燃料消費量削減	ガソリン消費量<L>	2.32166	822 L/年以下	780 L/年	105.4% ○
			893 893				
			軽油消費量<L>	2.62434	5,704 L/12か月以下	5,348 L/年	106.7% ○
			6,200 6,200				
		計 (kg-CO ₂)	22,935 kg-CO ₂		21376 kg-CO ₂ /年以下	20,500 kg-CO ₂ /年	○
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	事業系一般廃棄物		50 袋(45L)/年以下	54 袋(45L)/年	92.6% △
			53 袋(45リットル入り)				
3	水使用量の削減 <水道使用量: m ³ >		水道使用量		88 m ³ /年以下	83 m ³ /年	106% ○
			94 m ³				
4	グリーン購入の推進 (年度毎重点取組項目の決定・実行)	事務用品のグリーン購入 環境配慮電子・電気商品の購入 環境配慮車両の購入	事務用品のグリーン購入 環境配慮電子・電気商品の購入 環境配慮車両の購入		事務用品のグリーン購入 環境配慮電子・電気商品の購入 環境配慮車両の購入	事務用品のグリーン購入 環境配慮電子・電気商品の購入 環境配慮車両の購入	○
5	産業廃棄物処理業での環境配慮 (年度毎重点取組項目の決定・実行)	再生利用の促進 適正処理の徹底 タイヤ切断機の騒音対策 リサイクル商品の販売促進	再生利用の促進 適正処理の徹底 タイヤ切断機の騒音対策 リサイクル商品の販売促進		再生利用の促進 適正処理の徹底 タイヤ切断機の騒音対策 リサイクル商品の販売促進	再生利用の促進 適正処理の徹底 タイヤ切断機の騒音対策 リサイクル商品の販売促進	○

5. 環境経営活動計画

作成： 2023年8月1日

承認

作成

環境経営目標項目		取組項目		担当者	計画 実績	取組内容(スケジュール) 2022年度(2022年12月～2023年11月)
二酸化炭素 排出量の削減	1)電力使用量の削減	①空調管理の徹底	酒井	武山	計画	①空調設定温度26℃の徹底(7月～9月)。 ②不使用時の電源OFFの徹底。
		②照明管理の徹底				
					実績	①寒い日が多く空調の適温設定はまだ不徹底。 ②事務所、ロッカー室、休憩所の消灯が徹底OK。
	2)化石燃料消費量の削減	①使用燃料の把握	酒井	武山	計画	①②エコドライブにより、排ガス抑制をする。 ②夏・冬タイヤ交換時に適正値確認、及び走行前に目視チェックを励行。
		②エコドライブの励行(燃費向上)				
		③タイヤ空気圧の定期点検。			実績	①各車両の使用燃料を把握。 ②エコドライブ10のすすめのチラシを掲示して励行を実施できた。 ③冬用タイヤ交換時に適正な空気圧を確認。
廃棄物排出 量の削減	1)一般廃棄物排出量の削減	①排出量の把握	酒井	武山	計画	①分別の徹底で再利用できるゴミ(資源ごみ)を増加する。 ②コピー用紙の裏紙使用促進(張り紙をする)。
		②コピー用紙の削減				
					実績	①毎月45リットル入り袋の排出量を把握しゴミの分別の徹底に取り組めた。 ②コピー紙の裏紙使用の習慣が出来てきた。
	2)産業廃棄物の削減	当社自ら発生する産業廃棄物はなく、特に目標は設定しな。 (当社の収集物は全て有価で排出している)	酒井	武山	—	—
					—	—
水使用量の削減		①漏水管理の徹底	酒井	武山	計画	①水道料金領収証の使用量を前回分と比較確認。 ②社用車を洗車する場合は節水を励行。
		②水使用量の削減				
					実績	①毎月の水道使用量を明細にて確認、特に問題無し。 ②洗車時の節水が出来た。
グリーン購入の推進		①環境配慮資材の購入	酒井	武山	計画	①環境に配慮した資材を積極的に取り入れる。 ②エコマーク製品製品の購入に積極的に取り入れる。 ③事務用品は新規購入からグリーン商品に切り替える。
		②エコマーク製品の購入				
					実績	①事務用品については、環境に配慮した物品を購入している。 ②事務用品以外の日用品、洗剤等の検討も進んだ。
受託した廃棄物処理 における環境配慮		①受託した産業廃棄物のリサイクル向上のための情報収集	酒井	武山	計画	①分別の徹底、再利用の促進、再生使用の推進及び委託先の処理内容のチェック ②エコドライブの励行、収集ルートの見直し及び積載効率の向上 ③マニフェスト管理の徹底、委託契約の遵守、処理基準の遵守、適正処理の徹底 ④作業場の窓を締め切り騒音の低減 ⑤リサイクル製品の販売促進に積極的に取り組む。
		②収集運搬車両の燃費向上のための収集運搬方法の改善				
		③マニフェスト管理の徹底				
		④タイヤ切断機の騒音対策			実績	①再生タイヤのサイズ表を顧客に渡し、さらに再利用工場での区分作業再確認 ②地域別の収集運搬が出来て燃費の向上に努めた。 ③マニフェスト保管状況を確認した。 ④作業場の窓の締め切りを継続した。 ⑤取引業者と詳細な打合せをした。
		⑤リサイクル商品の販売促進				

6. 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境経営目標項目		具体的取組項目	取 組	
			結 果 ・ 評 価	次年度の内容
二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量の削減	①空調管理の徹底	①空調の適温設定を徹底し昨年度より消費電力を微減できました。②事務所、ロッカー室、休憩所の不使用時の消灯が徹底が出来た。	空調の適温化の徹底他継続して取組む。 未使用設備類の電源OFFの徹底。 パソコン、プリンターの特機電力削減。 コンプレッサー運転管理を見直す。
	化石燃料消費量の削減	②照明管理の徹底		
		①使用燃料消費の把握 ②エコドライブの励行(燃費向上) ③タイヤ空気圧の定期点検。	①各車両の使用燃料を把握し構内の重機ガソリン消費量が前年度より悪く無駄のない運転に従事する。②エコドライブの励行は実施できた。③冬用タイヤ交換時に適正な空気圧を確認をした。	取組を継続し、目標値の見直しと重機類のエコ運転も一層努める。
廃棄物 排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	①排出量の把握 ②コピー用紙の削減	①毎月45リットル入り袋の排出量を把握しゴミの分別の徹底に取組めた。②コピー紙の裏紙使用については習慣ができてきた。目標を達成した。	継続して取り組む。特に、分別の徹底による資源化、リサイクルの推進を進める。
	産業廃棄物の削減	当社自ら発生する産業廃棄物はなく、特に目標は設定しない。		
水使用量の削減		①泥水管理の徹底	①毎月の水道使用量を明細にて確認をし、特に問題は無かった。②洗車時の節水が出来た。	取組を継続する。 洗車時のバケツ使用による節水を今後も維持をする。
		②節水の徹底		
グリーン購入の推進		①環境配慮資材の購入	事務用品については、環境に配慮した物品を購入している。事務用品以外の日用品、洗剤等の検討も進んだ。	現在の事務用品以外の調査により、日用品、洗剤等についてもエコ品の優先購入に努める。
		②エコマーク製品の購入		
産業廃棄物処理における環境配慮		①受託した産業廃棄物のリサイクル向上のための情報収集	①再生できるタイヤのサイズ別表を顧客に渡し、さらに再利用をする工場への区分け作業を再確認した。②地域別の収集運搬が出来て燃費の向上に努めた。③マニフェスト保管状況を確認した。電子マニフェストを一部顧客により導入しペーパーレス化を推進できた。④作業場の窓の締切りを継続した。⑤取引業者と詳細な打合せをした。	情報調査・入手を行ない、これらを基に教育を行う。環境配慮への提案ができるように内部での検討会を継続する。
		②収集運搬車両の燃費向上のための収集運搬方法の改善		
		③マニフェスト管理の徹底		
		④タイヤ切断機の騒音対策		
		⑤リサイクル商品の販売促進		

環境経営システム 要求事項1 取組の対象組織・活動の明確化 要求事項6 実施体制の構築

取組の対象範囲と環境経営実施体制

作成:2013年 10月 1日

改訂:2023年8月 1日

□ 全社で認証・登録

1. 事業者名	有限会社 共栄ゴム商会		
2. 業 種	タイヤ販売業		
3. 主要製品	新品タイヤ販売、産業廃棄物処理		
4. 事業所・工場	所 在 地	従業員数	対象
本社	神奈川県横浜市都筑区大熊町20-1	6人	☐
			☐
			☐
			☐

承認	作成
酒井	武山

役 割	責任および権限
代表者	1. 取り組みの対象組織・活動の明確化（要求事項1） 2. 環境経営方針の作成、全従業員に周知（要求事項2） 3. 実施体制の構築、環境管理責任者の任命（要求事項6） 4. 代表者による全体の評価と見直し（要求事項13） 5. 環境経営レポートの承認 他
環境管理責任者 (EA21事務局)	1. 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価(要求事項3:事務局担当) 2. 環境関連法規の取りまとめ(要求事項4:事務局担当) 3. 環境経営目標及び環境経営計画の策定(要求事項5) 4. 環境コミュニケーションの実施(要求事項8) 5. 取組状況の確認及び問題の是正及び予防(要求事項12) 6. 環境関連文書及び記録の作成・管理(要求事項11:事務局担当) 7. 環境経営レポートの作成・公表(事務局担当)、確認(環責) 他
部門責任者	1. 教育・訓練の実施(要求事項7) 2. 実施及び運営(要求事項9) 3. 環境上の緊急事態への準備及び対応(要求事項10) 他
全従業員	1. 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、積極的に参加 2. 部門責任者の指示に基づいて環境管理活動に取り組む 他

(閲覧ルート)

社長→部門責任者、環境管理責任者

改版履歴

版 数	改 定 理 由	改定月日	承認	作成者

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無

当社に係る環境関連法規等は下記の通りですが、下記のように遵守状況を2023年12月に確認した結果、違反はありませんでした。
また、関連機関からの指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。
尚、この活動期間中に外部からの苦情もありませんでした。

(対象期間 2022年12月～2023年11月)

区分	法規制名	遵守内容	評価の結果
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 廃棄物の適正処理条例(横浜市)	産業廃棄物処理基準の遵守 マニフェストの適正管理 ゴミの分別収集	○
消防法	火災予防条例(横浜市)	指定可燃物貯蔵・取扱い	○
大気汚染予防法	自動車NOx・PM法	排ガス基準適合車」の使用	○

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21に取組み11年目で実施している3カ月毎に電気使用量、燃料使用量を前年度対比し今年度も検証をしてきました。今年度は電気使用量、収集運搬車両のガソリン削減が達成できませんでした。引き続き、目標達成できるよう努力していきたいです。今後は策定した環境関連法規の遵守、環境目標の達成及び環境活動計画の実施に努め、企業の社会的責任を果たすと共に、環境負荷の削減とコスト削減の成果を挙げ日々、社員全員で努力したいと思っております。